



令和6年度の振り返りと次年度に向けての方針

特定非営利活動法人 秋田県介護支援専門員協会 会長 小原 秀和

令和7年度もスタートしましたが、社会に目を向けると、急激な物価上昇や深刻な人手不足等、世界情勢の悪化等、我々を取り巻く状況は益々厳しくなっています。一方で、当協会の鈴木健太顧問が秋田県知事選挙に当選しました。16年ぶりに誕生した40代の新知事には、リーダーシップを発揮していただき「新しい時代の新しい秋田」を共に創造していきたいと思いをします。

さて、就任4年目となった令和5年度は、ACMAビジョン『秋田県民と介護支援専門員の未来創造』のもと、次の3つの事業方針を掲げ、職能団体としての運営体制の進化に取り組みました。

1. 県・地区協会の運営一体化による生産性向上と永続化の実現
2. 運営事業の評価と今後に向けてのブラッシュアップ
3. 秋田県へ地域貢献と地域課題の発見・政策提言、情報発信

まずは協会の事務局体制について、新たに職員1名を採用し事務局5名体制とすることで運営体制の強化を図り、運営事業を確実に遂行していくためのマンパワー体制が整いました。同時に今年度の重点項目であった「会員管理・地区協会の事務負担の軽減・県内のネットワーク網の整備」においては県協会・地区協会事務局との協議を重ね、令和7年度より会員管理、会費徴収業務について県協会に移行し、地区協会の負担軽減策を実現できました。今後もこの動きを加速させ協会全体としての事務業務の生産性向上を図りますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

次に、令和6年度から必須となった新カリキュラムに基づいた法定研修の運営に適合させる為、理事を中心とした「新カリキュラム検討委員会」を組織しました。初年度の取り組みで受講者の皆様へもご不便をおかけしましたが、今後の法定研修運営の基盤は整備することができましたので、今後も法定研修運営の新たな委員会等を整備し、ブラッシュアップに努めて参ります。

委員派遣等も多数行い、各施策への提言等、介護支援専門員の職能団体としての存在価値を示すこともできました。ケアラーポータルサイトの立ち上げ等、積み残した課題については次年度で対応して参ります。

会長就任2期目が終わり、この2年間で協会運営体制を強化することができ、ほっとしているのが本音です。すべては秋田県長寿社会課様からの手厚いご支援をはじめ、理事及び会員の皆様の献身的な活動への協力をいただいたおかげです。ご支援ご協力をいただきました全ての方々に感謝を申し上げます。

私事になりますが、先の令和7年度第1回理事会において会長に選任され、3期目の会長職を務めさせていただくこととなりましたので、この場を借りてご報告申し上げます。

令和7年度は新時代への幕開けの時流となりそうですが、どんな時代になろうとも、やるべきことはこれまで積み重ねたことを更に進化させ、当協会が発展・永続化するための行動です。会員一体オール秋田で創造していきましょう。

すべては、秋田県民と介護支援専門員の未来と幸せのために…

【目次】

【巻頭言】秋田県介護支援専門員協会 会長 小原 秀和	1 P
【県内3地区協会活動紹介】	2～4 P
○県北地区：大館鹿角・北秋田・能代山本	
○中央地区：男鹿南秋湯上・秋田・由利本荘にかほ	
○県南地区：大仙仙北・横手・湯沢雄勝	
【各研修報告】	5 P
【ケアマネペシリレー】・【介護支援専門員実務研修受講試験結果他】	6 P
【秋田県介護支援専門員協会 運営活動報告】（事務局・部会等）	7～8 P

県内3地区協会活動紹介

○県北地区：大館鹿角・北秋田・能代山本
 ○中央地区：男鹿南秋湯上・秋田・由利本荘にかほ
 ○県南地区：大仙仙北・横手・湯沢雄勝

県北地区介護支援専門員協会

地区会長：佐藤 菫子（秋田県看護協会立居宅介護支援事業所）
 事務局：佐藤 真弓（ケアプランセンター ひだまり）
 TEL：0186-63-1664 FAX：0186-84-8260
 地区会員：172名（令和6年12月31日現在）

【活動報告】

令和6年度は、研修会の開催回数を増やし、会員の資質向上に向けた取り組みを強化しました。
 オンライン研修、集合研修と、学びの場を多様化し、多くの方々に参加していただくことができました。
 報酬改定に伴い、注目度や重要性が高まっている「適切なケアマネジメント手法」を始め、今後もケアマネジメントの実践に役立つ研修会を実施し、現場で即実践できる内容を提供していきたいと考えています。

【研修報告】

《第1回研修会》

日時：令和6年6月22日（土曜日）・30名（会場：14名、オンライン：16名）
 テーマ：「令和6年度介護保険改定・適切なケアマネジメント手法」
 講師：青森県介護支援専門員協会 会長 木村 隆次氏

《第2回研修会》

日時：令和6年10月19日（土曜日）・秋田しらかみ看護学院（19名）
 テーマ：「在宅介護医療における多職種連携の重要性」
 講師：医療法人 小泉医院 医院長 小泉 亮氏

《第3回研修会》

日時：令和7年2月22日（土曜日）・オンライン（23名）
 テーマ：「栄養の力でケアマネが変わる～未来につながるケアマネジメント実践法～」
 講師：公益社団法人秋田県栄養士会 管理栄養士 工藤 円氏

《第4回研修会》

日時：令和7年3月8日（土曜日）・オンライン（30名）
 テーマ：「インテークを見直すとケアマネジメントが変わる～利用者をその気にさせる初回面接での関わり方～」
 講師：特別養護老人ホーム 長生園 総括主任 安達 秀則氏

《介護支援専門員スキルアップ研修》

日時：令和6年10月23日、11月13日、12月18日、令和7年1月15日、2月12日 ※全5回・延100名
 テーマ：「今さら聞けないケアマネジメント」
 講師：けあデザインラボ 代表 綿貫 哲氏
 テーマ：「秋田県におけるケアラー支援について」 ※11月13日副担当
 講師：秋田県介護支援専門員協会事務局主任 木村 哲郎氏（社会福祉士）

《第1回ケアマネ道場》

日時：令和6年7月12日（金曜日）・オンライン（24名）
 テーマ：「事業継続計画（災害）」
 講師：ケアプランセンターみんなの家 管理者 菊地 雅也氏

《第2回ケアマネ道場》

日時：令和6年9月28日（土曜日）・オンライン（14名）
 テーマ：「高齢者虐待対応と権利擁護支援の基本的理解」
 講師：鹿角市社会福祉協議会 事務局長 浅水 和也氏

《第3回ケアマネ道場》

日時：令和6年11月22日（金曜日）・オンライン（9名）
 テーマ：「介護現場におけるBCPと感染対策」
 講師：秋田県能代保健所 健康・予防課 副主幹（保健師）渡辺 智子氏



中央地区介護支援専門員協会

地区会長：松本 慶一（企業組合ほっと）

事務局：三浦 秀己（社会福祉法人ともしび会）

T E L：018-868-1188 F A X：018-868-1189

地区会員：284名（令和6年12月31日現在）

【活動報告】

中央地区介護支援専門員協会では、変化する社会情勢や地域の実情をふまえ、ケアマネジャーとしての専門性を高めるとともに、地域住民とともに支え合う包括的な支援体制の構築を目指し、「ICTを駆使した生産性ある業務効率化」「地域共生社会に向けた取り組み」「適切なケアマネジメント手法を学ぶ機会の創出」。3つを事業の柱として活動を行ってきました。今年度も、会員同士のつながりと協力をいただき、時代に求められる知識や技術の習得に寄与できる学びの機会を提供できたのではないかと思います。

【研修報告】

○第1回 令和6年7月25日 ハイブリット型（参加者：32名）

内 容：ウイルス性肝炎の病態と治療

講 師：秋田厚生医療センター 星野 孝男 氏

○第2回 令和6年8月2日 ハイブリット型（参加者：93名）

内 容：共生社会でケアマネは、どう活躍できるか？

講 師：福祉総合アドバイザー 熊谷 大介 氏

○第3回 令和6年11月15日 オンライン型（参加者：43名）

内 容：「仕事と介護の両立支援」～家族が就労している場合の支援方法について学ぶ～

講 師：一般社団法人 リョウリツ代表理事 前田 麗子 氏、金原 洋子 氏

○第4回 令和7年3月7日 オンライン型（参加者：68名）

内 容：介護支援専門員のためのマネジメントスキルについて

講 師：国際医療福祉大学赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 教授 桑原 直行 氏

○秋田けあまね塾～1つ上のケアマネを目指すために～ オンライン型／リアル開催（参加登録者16名）

第1回：令和6年9月19日（木）「ケアマネ業務に役立つICTについて」

講 師：NPO法人タダカヨ 山本 英也 氏、藤田 博之 氏、清水 信貴 氏

第2回：令和6年10月24日（木）「医療連携について」

講 師：秋田赤十字病院 医療社会事業課 佐藤 悠一 氏

由利組合総合病院 医療福祉相談室 本間 志穂 氏

第3回：令和6年11月22日（金）「インフォーマルを活用した事例」

事例提供者：法テラス秋田 小場 希 氏

○あきたケアマネカフェ リアル開催型（延べ参加者32名）

第1回：令和6年 7月26日（金）@秋田市 遊学舎

第2回：令和6年 8月23日（金）@由利本荘市 発酵小路 田屋ギャラリー

第3回：令和6年11月22日（金）@湯上市 トレイク湯上

○主任ケアマネサロン オンライン型（主任ケアマネ限定）（延べ参加者64名）

第1回：令和6年 5月17日（金）「令和6年度報酬改定後1ヶ月の振り返り」

第2回：令和6年 6月21日（金）「適切なケアマネジメント手法を学ぶ理由」

第3回：令和6年 7月19日（金）「適切なケアマネジメント手法を学ぶ」～手引きを深く読み込む①～

第4回：令和6年 8月16日（金）「適切なケアマネジメント手法を学ぶ」～手引きを深く読み込む②～

第5回：令和6年 9月20日（金）「適切なケアマネジメント手法を学ぶ」～手引きを深く読み込む③～

第6回：令和6年11月15日（金）「令和6年度第3回研修会の振り返り」

第7回：令和6年12月27日（金）「令和6年の振り返り」

第8回：令和7年 1月17日（金）「適切なケアマネジメント手法を学ぶ」～手引きを深く読み込む④～

第9回：令和7年 2月28日（金）特別編「高室成幸先生と語るCADL」

県南地区介護支援専門員協会

地区会長：小原 秀和（社会福祉法人あけぼの会）

事務局：塚本 信太郎（すこやか横手居宅介護支援センター）

T E L：0182-33-7777 F A X：0182-33-7722

地区会員：301名（令和6年12月31日現在）

【活動報告】

当協会の研修事業では、県協会や保険者、各職能団体等からのご協力を賜りながら、企画・運営を実施しております。おかげさまで、多数の皆様にご参加いただき、知識・技術の研鑽と資質向上に努めることができました。また、現在約230名の方にご登録されているLINEWORKSを活用し、他圏域や他団体の研修案内の情報発信を行い、広報活動としても有効活用しております。

【研修報告】

◇第1回 令和6年6月28日（参加者：81名）

内容①：秋田県の未来について考える

講師：秋田県介護支援専門員協会顧問 秋田県議会議員 鈴木 健太 氏

内容②：介護報酬改定と介護支援専門員の新戦略

講師：秋田県介護支援専門員協会 会長 小原 秀和



◇第2回 令和6年11月22日（参加者：140名）

内 容：能登半島地震における対応からみた BCP

講師：社会福祉法人 清祥会特別養護老人ホームこすもす 副施設長

石川県介護支援専門員協会 副会長 水上 直彦 氏

◇第3回 令和7年2月28日（参加者：61名）

内 容：「伝える」から「伝わる」へ～福祉の現場が明るくなるコミュニケーションのコツ～

講師：プレゼンテーションプランナー 伝わる表現アドバイザー 山本 衣奈子 氏

◇できるケアマネ養成塾 令和6年10月3日 11月20日 12月6日（参加者：14名）

第1回：マインドセット編

講師：秋田県介護支援専門員協会 会長 小原 秀和

第2回：適切なケアマネジメント手法について

講師：秋田県介護支援専門員協会 理事 石橋 裕子

第3回：医療連携のコツ

講師：木村内科医院 院長 木村 靖和 先生

苦手克服！医療連携のコツ

講師：社会福祉法人あけぼの会 在宅事業部課長 理学療法士 永富 慎之 氏

◇横手地区 ケアマネジメント研修会 令和6年7月31日（参加者：62名）

内容①：第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画について

講師：横手市まるごと福祉課

内容②：グループワーク「地域支援事業からの卒業について」



◇横手市在宅医療・介護多職種連携研修会（共催）令和7年2月7日（参加者：157名）

内 容：多職種で支える入退院支援について～それぞれの立場から～

コーディネーター：横手市医師会 細谷 拓真 氏

パネリスト：県南地区介護支援専門員協会 石橋 裕子・長山 正弘 他



研修報告(県受託分・協会自主研修)

研 修 名：ケアプラン個別点検アドバイザー養成研修（秋田県委託事業）	【R6.10.23・11.6 47名修了】
講 師 名：特定非営利活動法人 秋田県介護支援専門員協会 理事 石橋 裕子	
アンケートより：・とても勉強になりました。研修に参加する事で自分の仕事の見直しができ、モチベーションアップに繋がります。特に今回の研修では、気づきを与える点検が印象的で、このような点検であれば何度も参加したいと思いました。市町村によって見方の違いがあり、一緒に取り組んでいく姿勢は、今後自分が関わりを持って行く時、大事にしていきたいと感じました。	
研 修 名：地域同行型研修（秋田県委託事業）	【R6.11.18・R7.1.15 20名修了】
講 師 名：特定非営利活動法人 秋田県介護支援専門員協会 理事 松本 慶一 特定非営利活動法人 秋田県介護支援専門員協会 理事 石橋 裕子	
アンケートより：・大変有意義な研修に参加させて頂きました。研修を通して、介護支援専門員や多職種の方の話を聞いたり、専門分野に関して自身の至らない部分を把握したりすることができました。 勉強の機会を頂きありがとうございました。	
研 修 名：事業所管理者向け研修（秋田県委託事業）	【R6.11.12 99名修了】
講 師 名：一般社団法人 あたご研究所 代表理事 後藤 佳苗 氏	
アンケートより：・グループのなかには初めて後藤先生の講義を受講された方もおり、「もっと早く受講していれば考え方が違っていた」と残念に思われている方もいました。大変分かりやすく有意義な研修でした。グループ内でもいろいろお話を聞け、他の事業所の取り組みが参考になりました。	
研 修 名：初任者フォローアップ＆復職者向け研修（秋田県委託事業）	【R6.12.23 39名修了】
講 師 名：ケアタウン総合研究所 代表 高室 成幸 氏 ふくしの人づくり研究所 奥田 亜由子 氏	
アンケートより：・事例を元に新課題標準項目と適切なケアマネジメント手法を使いながらアセスメント手法について学ぶ事ができ、ADL、IADLの他にCADLの視点を持つ事で「本人らしさ」の入ったケアプランになっていくと感じた。	
研 修 名：介護予防従事者研修（協会自主事業）	【R6.12.11 106名修了】
講 師 名：御所野地域包括支援センター けやき 主任介護支援専門員 阿部 公一 氏 泉地域包括支援センターリンデンバウム 管理者 金野 大志 氏	
アンケートより：・本人と家族、自助、公助、共助を含めたプラン作成を心がけていきたいと思いました。「目標の達成を成功体験にする」という言葉が心に残りました。私自身もケースを積み重ねていく中での経験を、今後のプランに生かしていきたいと思います。	
研 修 名：ICTを活用した生産性向上スキル習得講座（協会自主事業）	【R7.2.27 49名修了】
ICTでひらく現場力 ～グループワークで見つける課題解決のカタチ～	
講 師 名：NPO法人タダカヨ	
アンケートより：・業務課題をケアマネジメントプロセスに照らし、Google フォームで個人の課題を抽出し、Canva や Google スプレッドシートを活用してグループの課題を整理しました。最後に個人のアクションプランを作成し、業務負担を軽減する新たな可能性が広がりました。AIケアマネジメントや音声入力を活用し、効率的な支援記録や書類作成が期待されています。今後は実践と定着が鍵となります。	

秋田県連帯事業「令和6年度 ケアラー支援・普及啓発事業」

- 令和6年度 普及啓発資料の作成・配布
ヤングケアラーに関する知識や理解を深める手助けとして、当事者やその家族等から相談を受けた際に多方面で活用します。普及啓発チラシ 30,000 枚の作成・配布を行いました。
- 令和6年度ケアラー支援・普及啓発セミナー
「ヤングケアラーの現状と必要な支援を考える」を開催し、142 名の方にご参加いただきました。
講師：一般社団法人 日本ケアラー連盟 代表理事 堀越 栄子 氏
- 令和6年度 ケアラーサポートLINE秋田 対応日：月曜日～金曜日 10：00～18：00
ヤングケアラーを含む、ケアラーの方が気軽に参加できる LINE 相談窓口として、専門の知識を有する職員が対応し、必要に応じて関係機関へつなぐ役目を担っております。
- ケアラーオンラインつどいの場：毎月第4木曜日 19：30～20：30
ケアラー同士が気軽に集まり、お互いの情報共有や相談することができる「つどいの場」を開催しております。
- ヤングケアラートークルーム
小学生から高校生までの学生を対象とした、ヤングケアラーの相談や交流の場として、「ヤングケアラートークルーム」を不定期に開催しております。
- 相談援助従事者研修
「～つながりを持つ～ ケアラーの視点から伝えたいこと 短編映画『ツナガル』上映と解説」を開催し、94 名の方にご参加いただきました。
講師：一般社団法人 ケアラーアクションネットワーク協会 代表理事 持田 恭子 氏

ケアマネ・ペンリレー

「わたしの『歳を重ねる』という事」

大湯リハビリ温泉病院指定居宅介護支援事業所
管理者 主任介護支援専門員 和井内 光子



私は思っている。「歳を重ねるのは素敵な事」。50代中盤ともなれば、ある程度の自由な時間と、趣味に掛けるだけのお金は何とかなる。もちろん、偏頭痛、目が見えない、腰が痛いなどの症状は日常茶飯事。それでも家族に支えられ、職場の仲間に支えられ、縦横の繋がりに支えられ今がある。職場の仲間には感謝しきれない。一人では何もできず、いつも頼ってばかり。面倒な上司だと思われているかもしれない。けれど、一緒に未来の話をすると朝まで語り続けられる、そんな仲間で、一人一人が頼もしい。

ところで、私は趣味が多い。というよりも、やってみたいことが多いと言った方がいいのかもしれない。その一つ一つには意味がある。5年ほど前から始めた水引。アクセサリーや作品を作っている。水引はご祝儀袋で目にするような、色のついた細い紐で結んでいくもので、ここ数年はお正月飾りを自分で作っている。4年ほど前には手話を始めた。幼少の頃事故にあい、片耳がほとんど聞こえない。いつか役に立つかもしれない、そんな事を思っていたところ、先日読んだある本に、「歳をとり、耳が聞こえなくなっても手話を覚えているとコミュニケーションができる」と、書かれていた。そして、昨年何とか手話検定3級に合格した。さらには昨年末に、お茶を始めた。若い時に着付けを習い、その後着物を着る機会がなかったため、お茶を習えば、と思っていた。願えば叶うものだ。

こうして様々なことに足を踏み込んでいるが、その全てに通じるものが、感性や集中力、無言、それらは私に必要なものだ。そして職業である「介護支援専門員」にも求められるものの一つだと思っている。歳を重ねる毎に沢山のひとと出会い、繋がりが、視野が広がっていく今が楽しい。今年はトレッキング程度の山登りに連れて行ってくれる方と繋がった。一人旅も今年はどこに行こうか思案中。まだまだ楽しいことは沢山ある。「繋がりが」を大切に、その心をこれからも公私ともに活かし、歳を重ねていきたい。

和井内さんありがとうございます。次回は中央地区です

【インフォメーション】秋田県社会福祉協議会

令和6年度秋田県介護支援専門員 実務研修受講試験について

《年度別 受験者数・合格者数・合格率》				《地域別（勤務先による）》			
年度	受験者数	合格者数	合格率		令和4年度	令和5年度	令和6年度
令和4年度	568人	97人	17.1%	県北	18人	26人	35人
令和5年度	568人	80人	14.1%	中央	51人	34人	62人
令和6年度	512人	138人	27.0%	県南	28人	20人	41人
				計	97人	80人	138人

職種別合格者数			
看護師	13人	介護福祉士	105人
准看護師	1人	歯科衛生士	1人
保健師	1人	栄養士 (管理栄養士含む)	3人
理学療法士	2人		
薬剤師	1人	精神保健福祉士	3人
助産師	1人	柔道整復師	1人
社会福祉士	6人	相談援助業務	4人

今年度の試験は令和6年10月13日に実施し、138名の方が合格されております。合格者を対象とした実務研修では、従来どおりの訪問を伴う実習を行いました。御協力いただきました事業所の皆様に感謝申し上げます。

秋田県介護支援専門員協会 運営・活動報告

◆ 事務局 ◆

当協会では、会員の皆様の利便性向上を目指し、令和7年4月1日より、入退会及び会員管理・会費の納入等に関する方法を次のように変更いたします。

1. これまで各地区の介護支援専門員協会事務局において行っておりました上記のお取り扱いを、秋田県介護支援専門員協会事務局で一括して行います。
2. 会費の納入につきましては、より迅速かつ正確に行えるよう、リコーリースによる口座振替のお取り扱いを原則とさせていただきます。

会員情報の変更をお知らせください

会員情報（氏名、自宅住所、勤務先等）の変更があった場合には、事務局までお知らせください。本協会ホームページ上の入力フォームから、届出を行えるようになりました。

◎ 研修部会 ◎

「学び」と「つながり」が深まる！

ケアマネジャーとしてのスキルアップを目指し、実践に役立つ様々な研修会を開催しています。経験年数や業務内容に応じた学びの場があり、初任者からベテランまで、そして学ぶだけではなく、仲間との交流や情報交換の場としても好評を得ています。

主な研修活動は、法定研修のほか法定外研修として、初任者向け～管理者向け研修、ケアプラン作成やICT活用、ケアラー支援・普及啓発セミナーなど、多様な研修会を実施し会員は無料で参加できます。

これらの研修活動を通じて、県内の介護支援専門員の知識・技術の向上と社会的地位の確立、より働きやすく利用者にとってよりよい支援ができる環境づくりを目指しています。そのため、皆さんと一緒に学び、成長し、支えあえる場を提供していきます。楽しく学び、仲間と成長できる秋田県介護支援専門員協会の研修。ぜひ参加してスキルアップと新しい出会いを楽しんでみませんか！

◎ 調査研究部会 ◎

令和6年度は、調査テーマや内容について考え、何のために調査・研究を行い、何に繋げていくのかを検討しました。今年度、主体となる調査活動はありませんでしたが、介護保険以外の医療や福祉等の領域のほか、ケアラー支援等も含め、新たな政策や社会資源等についても視野を広げ、その動向を定期的に把握してきました。今後も継続して、日々のケアマネジメントの実践のあり方を再考しつつ、必要な調査・研究が見つかり次第取り組んでいければ良いのではないかと考えています。

◎ 相談部会 ◎

令和6年度は、オンライン形式での研修開催が主流だったこともあり、研修会場等への相談ブースの設置はありませんでした。また、会員の皆さまからの個別相談もほとんどなく、比較的落ち着いた1年となりました。今後も現場での悩みや不安に寄り添う「相談窓口」としての役割を果たせるよう、体制の維持と情報の共有に努めてまいります。引き続き、皆様からのご意見・ご相談をお待ちしております。

◎ 災害対策プロジェクト委員会 ◎

令和6年11月9日に日本介護支援専門員協会副会長の七種秀樹氏より、災害支援の経験を元に「これまでの災害支援と能登半島地震から学ぶ災害ケアマネジメント」の研修会を開催いたしました。

117名の介護支援専門員の方々より受講いただきました。グループワークでは秋田県内各地域の災害支援について活発な意見が出ており、情報共有になるなど有意義な研修になったのではないかと思います。災害対策支援の基本的な考え方の周知、「行政や、地域包括支援センター等、関係機関や団体との連携」、「日本介護支援専門員協会・都道府県支部・地区支部」との連携（被災状況の報告や支援要請）などの活動は、職能団体の重要な役割と捉えておりますので、引き続き努めて参ります。

◎ 広報部会 ◎

広報部会では、『秋田県介護支援専門員協会ホームページ』の更新と共に、『Facebook』を通じて会員及び県民の皆さまに幅広く情報提供をしております。また『LINE WORKS』を通じて会員の皆さまに情報提供も行っており登録を行って頂ければと思います。各種研修会（事業所へ配布されていない研修情報）及び最新の情報等については、ホームページやFacebookをご覧ください。

秋田県介護支援専門員協会

検索

第23号（発行日 令和7年 4月15日） 年1回発行

発行 特定非営利活動法人 秋田県介護支援専門員協会

事務局 〒010-0922 秋田県秋田市旭北栄町1番5号 秋田県社会福祉会館 3階

Tel：018-893-4011

Fax：018-893-4012

E-mail：acma@acma.jp

ホームページ：acma.jp

広報部会 清水 文明（県北地区介護支援専門員協会） 佐藤 真弓（県北地区介護支援専門員協会）

川端 洋祐（中央地区介護支援専門員協会） 畠山 北光（中央地区介護支援専門員協会）

渡部 勝（県南地区介護支援専門員協会）